

[演題3]

重度障害者の社会参加を可能にする環境条件 ～全国頸髄損傷者連絡会全国総会2015年東京大会への参加～

芳本 真帆, 岡本 夏奈, 打浪 愛

神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科

1. はじめに

重度障害者の宿泊を伴う長距離の旅行には、環境の未整備や介助者の不在、金銭的負担など多くの困難が考えられる。我々は、実体験により具体的な内容を知る機会を得ることが出来た。

兵庫県在住の頸髄損傷者2名より、東京で行われる全国頸髄損傷者連絡会「東京大会」の総会出席にあたり、我々にボランティアの依頼があった。

本稿は、このボランティアで体験した東京までの一泊二日の旅行の中で、重度障害者が経験する困難と、社会参加を可能にする環境条件について報告する。

2. 活動内容

今回の一泊二日のスケジュールは次の通りである。

一日目は、西明石駅で合流し新幹線にて東京に向かった。午後からの全国総会に参加し、夜の交流会に参加した後ホテルに宿泊した。二日目は、宿泊先を出て、東京スカイツリーにある「すみだ水族館」に行き、その後東京から姫路行きの新幹線を利用し明石駅で解散となった。

3. まとめ

宿泊を伴う旅行の中で、いくつかの困難な場面、また想定していたよりスムーズに行った場面があった。例えば、電車での移動に関しては、乗客が多くホームを進むことが困難であった。しかし、駅員が駅のホームまで同行し、乗降時にはスロープを設置してくれたため、想像していたよりもスムーズであった。その他の多くの出来事については当日の発表にて報告する。

この活動は、総合リハビリテーション学会活動・研究助成金により行いました。



写真(左) 新幹線に乗車する様子



写真(右) スロープを設置する様子